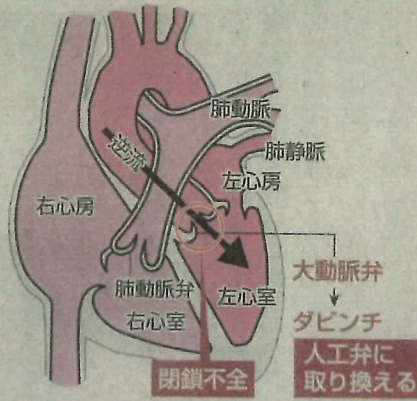


# ロボ手術で心臓弁置換

## 鳥取大病院 国内初実施

### 患者負担減、保険適用目指す

鳥取大医学部付属病院（米子市西町）が24日、内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」を使った心臓の大動脈弁置換術を、国内で初めて実施したと発表した。正確なアームの動きで切開幅が広がる。将来の保険適用を見越し、他の大学病院に先駆けて導入したロボット



大動脈弁置換術



ダビンチを使った大動脈弁置換術について説明する心臓血管外科の吉川泰司副診療科長（米子市西町、鳥取大医学部付属病院）

# 山陰社会

原 静玖  
（鳥根大付属義務教育学校後期課程7年）

トで磨いてきた技術を生かした。ダビンチによる大動脈弁置換術を実施した患者は大動脈弁閉鎖不全症の70代男性。弁の閉鎖不全により肺から全身へ向かう血液の一部が逆流し、心不全や不整脈を引き起こす病気で、閉鎖しない弁を人工弁に取り替えた。

ロボットのアームは柔軟な動きでメスやピンセットを操り、従来は長さ20〜25センチ必要だった皮膚切開が4〜8センチ程度で済む。出血が少ないため回復が早いのが利点で、従来2〜3週間程度かかった退院までの期間が、今回は術後9日だった。

同病院は2010年、全国の大学病院に先駆けてダビンチを導入。他の疾患を含め2163件（10月現在）の手術実績を重ねた。今回の手術は保険適用外だが、原田省病院長は「ロボット手術の先駆者としてより高度な手術を込めたい」と病院側の負担で実施に踏み切った。

執刀した心臓血管外科の吉川泰司副診療科長が24日、病院で会見し「保険適用に向けて実績を重ね、多くの方に治療を届けたい」と話した。（坂本彩子）